

式 辞      2022年3月15日

只今、学位記を授与された皆様、ご卒業おめでとうございます。今年、大雪に見舞われた北国の青森にもようやく春が巡り、明るい日差しがこの日をお祝いしております。又今年、下北キャンパスから初めての卒業生を送り出すことになり、むつ市長の宮下宗一郎様、学校法人星美学園副理事長の内田大輔様のご臨席もいただき、宮下市長様には後程、ご祝辞を頂戴することになっております。また、常日頃、本学を支援してくださっている後援会、父母会、バラの会の会長様方にもおいでいただいております。ご多用中のところ遠路お運びくださいます誠ありがとうございます。

この晴れの門出をもって皆様は、社会人としての基礎的養成を終えられたこととなります。それは一つの目標の達成であり、皆様ご自身にとって大きな喜びであり誇りです。同時にそれはご家族にとってもまた私たち教職員にとっても大きな喜びです。ことに、皆様は入学なさってからの二年間、新型コロナウイルス感染症

に翻弄され、常とは全く異なる短大生活を送られました。戸惑うことも少なくなかったと思います。それでも先生方のご尽力があり、皆様の努力と協力があって、制約の多かった学生生活を結構、楽しみながら、卒業という一つの成果を上げられました。おめでとうございます。ご家族の皆様にとってもご心労の多い2年間だったことと存じます。心からお喜び申し上げます。

さて、これからほとんどの皆様は、ご自分の希望と与えられたチャンスと選択とによってそれぞれの仕事に就かれます。職場であれ、家庭であれ、時によっては一人舞台の場であれ仕事を持つということは大人として当然なこと、であるだけではなく必要こと、大切なこと、尊いことです。

働くことは人間の本性に植え付けられていることです。旧約聖書に『創世記』という書物があります。「天地創造の由来」という意味の書で、その初めに「神が天地万物を造られた。」ことが物語られといます。それによりますと、天地創造の最後に神は言われます。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。

そして海の魚、空の鳥、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」と。この「支配する」とは「手入れをする」「世話をする」ということで、天地万物を創造された神は、神にかたどり、神に似せて造られた人間、知恵と自由意志を持つ人間にご自分の創造の業への参加を望まれたのです。ですから私たちの働きはそれが相応しくなされるならば、神の天地創造の業に協働すること、共に働くこと、神の思いに沿うこととなります。働くことの尊さの所以です。

この神の思いの中に、私たち一人一人に対する神の思いがあります。神の思いの実現は一人一人にとっての完成であり、真の自己実現、本人の最高の幸せといえます。

ところで、この二年間、コロナと共にメデイアを賑わしたのは東京オリンピックでした。一年の延期か、中止かで振り回され、アスリートにとってはつらい試練の時だったと思います。が、一旦開幕するや、凄まじいエネルギーの発散で素晴らしい成績をあげ、多くの感動的な場面、手に汗握る場面がありました。そ

んな中でもっと地味な場面でしたが、私の心に響いたのは小平奈緒選手と大野将平選手の対談でした。私はラジオで聞いたのですが、他のメディアでご覧になった方も多いと思います。小平選手は平昌オリンピックスピードスケート 500mの金メダリスト、この対談の時点では北京オリンピックでの連覇を期待されていました。大野選手は東京オリンピックの柔道 73 キロ級で金メダルを獲得し、オリンピック二連覇を成し遂げていました。この対談はお二人の強い希望で実現したということで、この「連覇」など六つのテーマで話し合われました。スポーツの世界でそれぞれに最高峰を極めたお二人の共通に抱える課題をめぐる対談で、真剣にご自分の生を生きる姿を美しいと思いました。

そのテーマの一つは「自分は何者なのか」というものでした。二度のオリンピックで連覇を成し遂げた（あるいは期待されている）偉大なアスリートとして、自分はこれでいいのかという問いでした。偉大な先輩たちの後に従い、日本の柔道は金でなければという周囲の期待の中で、2 連覇があってこそその大野将平

で、それが自分の存在価値というプレッシャーの中で、周りに求められている自分ではなくて、信念をもって自分がなりたい姿が自分なのではないかと思ひ至られます。

小平選手も「平昌オリンピックで金メダルを取った後に、周りが作る小平奈緒という理想像にすごく縛られた時期があつて、自分らしくない自分と向き合わなければいけなかった。その後、災害ボランティアに参加して、地元の人と接する中で自分を取り戻していった。アスリートは特別だという考え方ではなくて、本当に一人の人間としてどんな人にでも寄り添って歩いて行けるような人間でありたいと思った。」と言っておられました。対談のお話が長くなりましたが、ご自分の置かれた状況の中で、「自分は何者だ」と問う姿勢が美しいと思いました。

皆様はこれから始まる新しい生活、環境の中で、懸命に生きていかれることでしょう。そんな夢中で過ごす日々の中でも、時には「自分は何者か」と問いながら、自分を取り戻す時を持てますように。他人（周囲）の期待に応えようと励む自分では

なく、思い描く小さな自分の理想に縛られるのでもなく、「自分は何者か」と問いながら本物の自分を求めていかれますように。

「本物の自分」、それはきっと神様があなたについて思い描いておられる姿なのです。

ではもう一度、おめでとうございます。ご自分の「今」を肯定的、積極的に受け入れ、元気に、希望をもって新しい世界へと飛び立っていかれますように。

すべての人の父である神様の豊かな祝福と明の星なる聖母マリアの御保護に、皆様をお委ねして式辞とさせていただきます。

2022年3月15日

青森明の星短期大学